

革新技術で病院の医療空調。

新晃工業

医療施設向けに多彩な提案 安心・安全環境実現する空調機

空調機器総合メーカー、新晃工業（社長＝武田昌三氏、本社・大阪市北区南森町1-4-5）は病院・介護施設向け空調機器として外気処理機「クリンキューブ」の抗菌剤「Cリナ」仕様であるクリンキューブC11、4床病室用ファンコイルユニット、隔離室空気全熱熱交換装置「ロスコンRAA型」をはじめとする多彩なラインアップを構築、施設の安心・安全・健康維持をテーマとした提案に取り組んでいる。

同社の医療施設向け空調機の出発点ともいえるのが2ファンモーター搭載の「リリーフエアAHU」もどきには「空調機を稼働させながら送風機や千々夕の日に保守・メンテナンスを行いたい」という施設管理側の要望に応える形で開発した「技術部・藤原博史部長代理」もの。1台のファンモーターが停止し

ても、もう一台のファンモーターのみで通常運転時の約70%の風量を確保したバックアップ運転が可能で、バックアップ機用スペースのない現場でも設置できる。また、1台のファンモーターを運転したまま、もう一台のメンテナンスが行き、部分負荷時の1ファンモーター切り替えて優れた省エネ性を実現している。

病院向けのクリンキューブは加温では雑菌の繁殖を抑えるために高湿の蒸気を用いるのが主流だが、これに対して除菌しながら一般的な水式加湿器を上回る経済性を実現したのが外気処理機「クリンキューブ」。加温エレメントに電解水を循環させて蒸すという方式を採用、低消費電力で優れた除菌効果を発揮する。同機の抗菌剤「Cリナ」仕様製品が「クリンキューブC11」の持つ優れた殺菌特性に着目し、フィンや風量調整ノミなど

4床病室用ファンコイルユニットは、従来の機器が天井内のダクト工事やベッドなどの吹出口が必要だったのに対し、独自の導引型吹出口形状を採用したことで部分負荷時の気流到達距離の最適制御を可能にし、ダクトレスの4床個別制御を実現した。塵上のコストダウンのほか、DCモーターによる部分負荷時の効率化を図ったことで消費電力も削減できる。

ロスコンRAA型は、「RA（送風）がOA（外気）側に混合すると湿度や臭気が行き渡るが、RAA型では硬質合成樹脂製のエレメントを熱交換に組み込むことで、臭気などの移行を防いでいる。冷却時はRA側に水を噴霧して気化熱で冷却し、これとOAを熱交換することでSA（給気）を冷やす。加熱時はOA側に水を噴霧して加湿効率を上げる」という仕組み。

組みの熱回収機、病院のほか、動物飼育施設、動物研究施設などに導入。同社では、このほか手術室の壁に収まる超薄型空調機、空気感染を低減するエアカーテンなど医療施設に適する空調システムを確立し、多様な提案を展開している。